中長期成長戦略　2025-2035

ROHTO

目次

０１：中長期成長戦略にむけて

０２：中長期成長戦略
－基本方針と業績予測
－主要事業戦略

０３：資本政策と株主還元

パーパス・経営理念

**世界の人々に商品やサービスを通じて健康をお届けすることによって、
当社を取り巻くすべての人や社会を「Well-being」へと導き、
明日の世界を元気にすること。**

経営理念

1. 豊かで幸せな生活を送るための心身の健康に貢献し続けることがロートの最大の責務と捉え、その実現のために長期視点での経営と価値創出に努める

2. ロートは、社会の公器としての使命を自覚し、ロートを取りまく全ての人達と協働して社会課題を解決し、これにより得られた便益を共有する

定款　第一章　第二条

ビジョン2030 “Connect for Well-being”

ロート製薬は、世界の人々が Well-being を実感できる時間が少しでも長くなるように、

医薬品、スキンケアに加え、さまざまな事業で　イノベーションを起こし幅広く「つなげていく」

それを実現するために、社内外の仲間同士を、組織と組織をしっかり「つなげていく」

そして信頼の連鎖の上に人材を育成し、一体感ある組織を作り上げ、人々の更なる Well-being に「つなげていく」

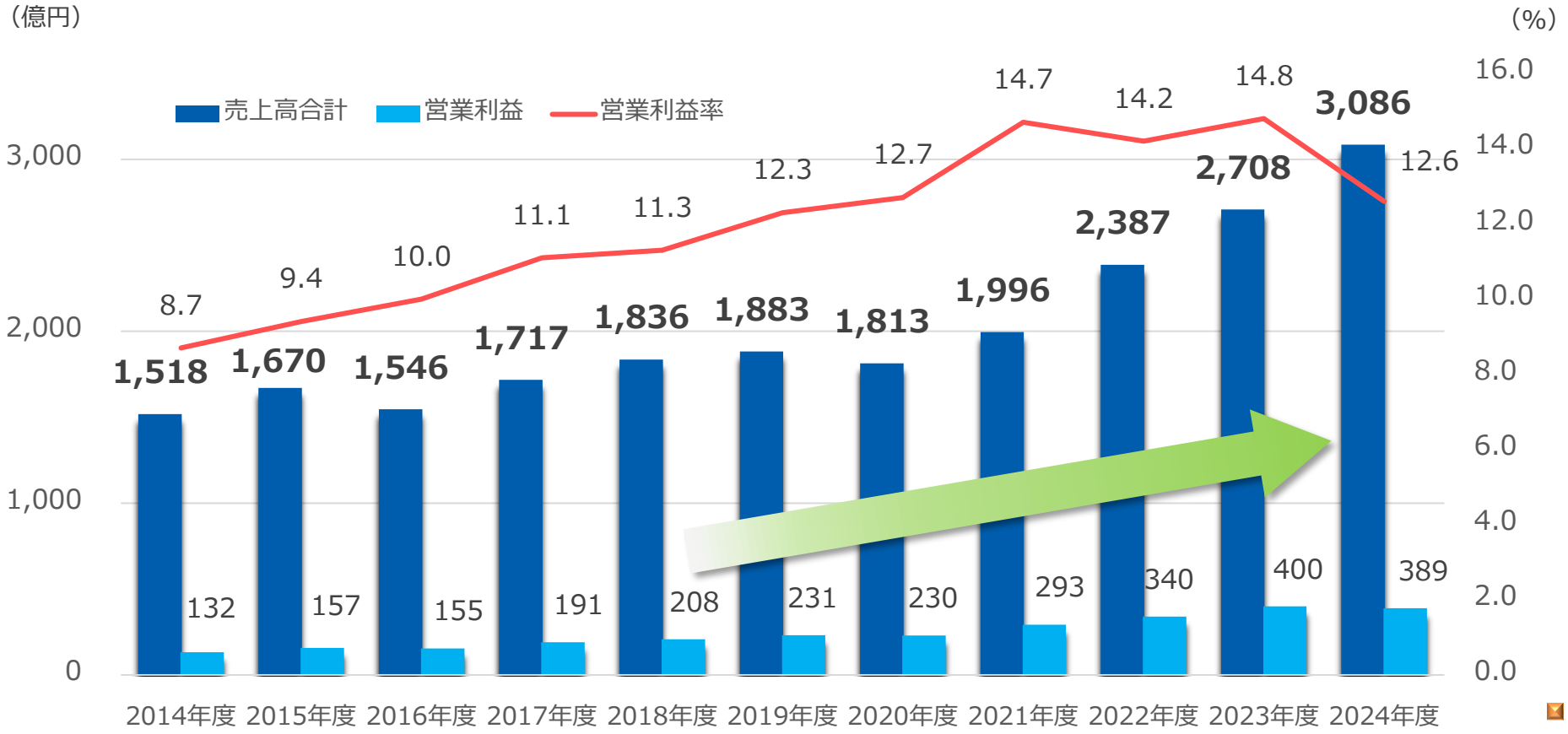
事業活動を通じて世界の人々のWell-beingに貢献するとともに、
健康で幸せに過ごすことができる持続可能な社会の実現を目指しています。

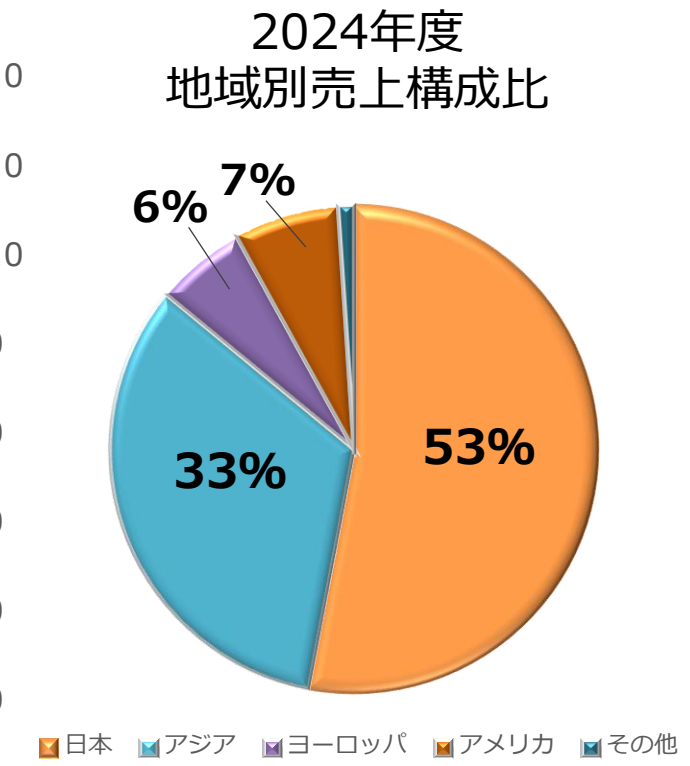
ロートは、ハートだ。

10年間の連結業績　売上・利益とも倍増

コア事業を中心に、国内そしてアジアでのお客様の輪を拡大

―直近10年間の業績推移―





中長期成長戦略　基本方針

ロートサイエンスを進化させ、セルフケアのコア事業の収益最大化。
プロフェッショナルケアへの基盤を構築し、Well-beingの輪を広げ、未来を創造する。

課　　題	戦　　略
事業収益力の強化	**セルフケア事業のグローバル展開・新分野への拡大** ■アイケア・スキンケアの新価値を国内外へ拡大 ■ヘアケア・フェムケアなどの新分野で地位確立
技術商品力の深化と拡充	**Well-beingなライフスタイルの提供** ■フィトサイエンス*の素材研究からサプリメント導入 ■内服・食品での胃腸ケア・予後ケア、EYSとのシナジー
メディカル事業の基盤構築	**医療事業ファンデーション・ネットワークの確立** ■ケミカルからバイオ・細胞加工までのCDMO拡大 ■眼科事業のグループ内連携、皮膚科向け化粧品 ■医療用眼科新薬・再生医療等医薬品の開発

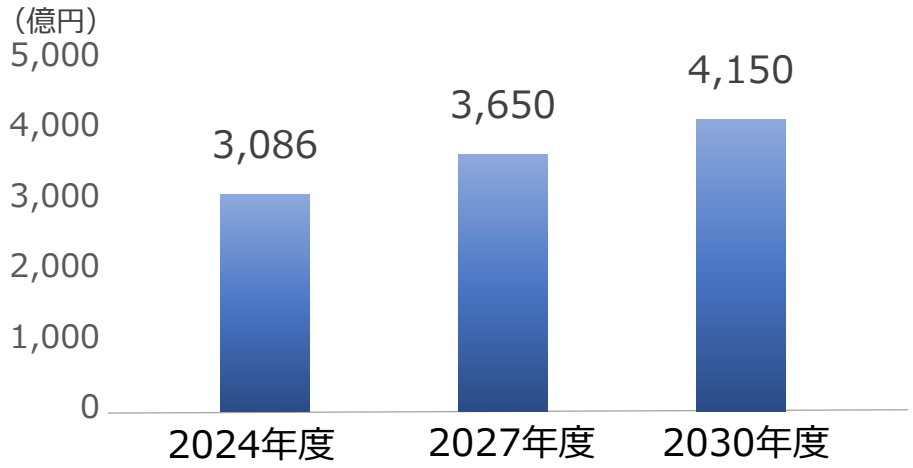
＊フィトサイエンスとはロート製薬が提唱する、自然界の力を科学的に解明し、社会に貢献する新たな事業戦略です。特に、自然素材の活性や機能（フィトパワー）に着目し、地域資源や技術を活用して、持続可能な社会づくりを目指しています。

中長期成長戦略　連結業績予測

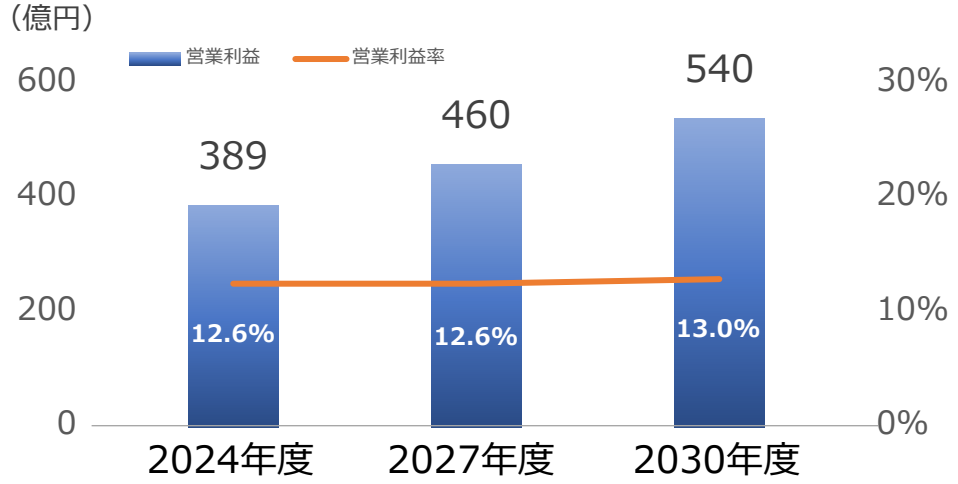
2030年度　売上高4,150億円　営業利益540億円

	2024年度	2027年度	2030年度
売上高	3,086億円	3,650億円	4,150億円
営業利益	389億円	460億円	540億円
営業利益率	12.6%	12.6%	13.0%
EBITDAマージン	16.9%	17.9%	18.2%
海外売上比率	47%	50%	53%

売上高



営業利益

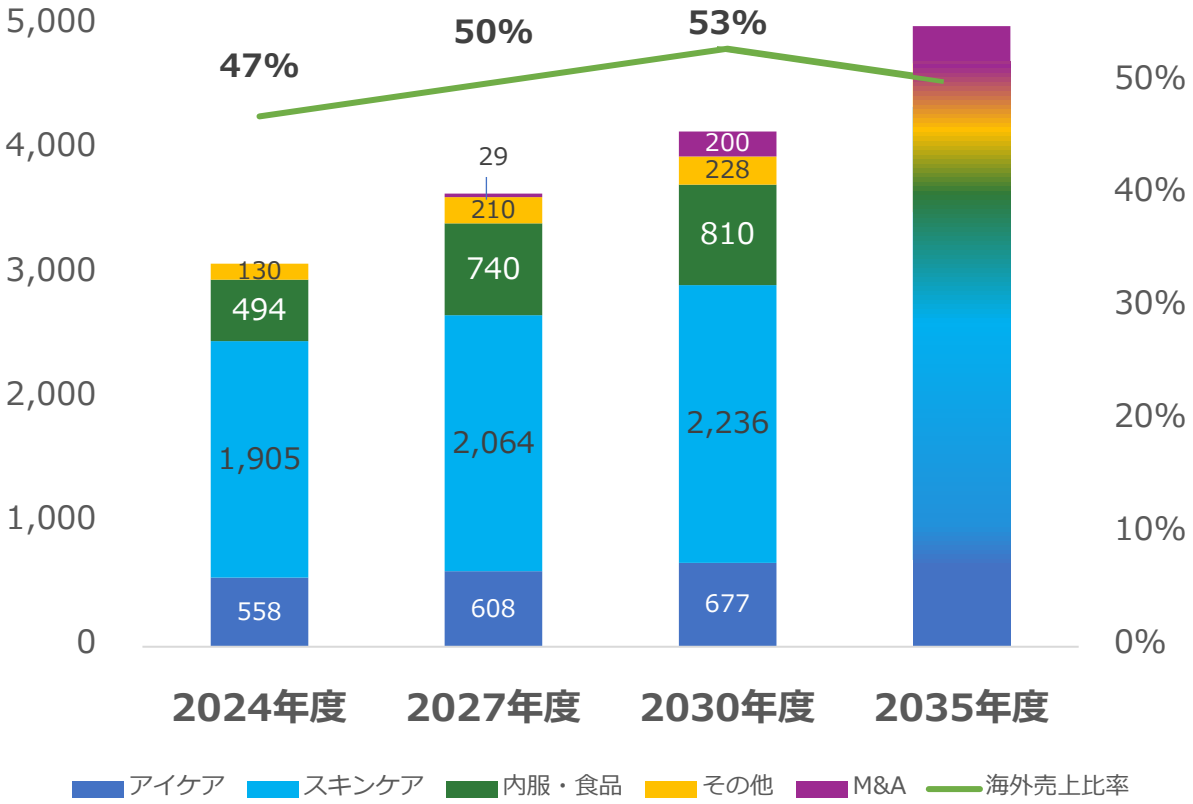


中長期成長戦略　売上予測（カテゴリー別）

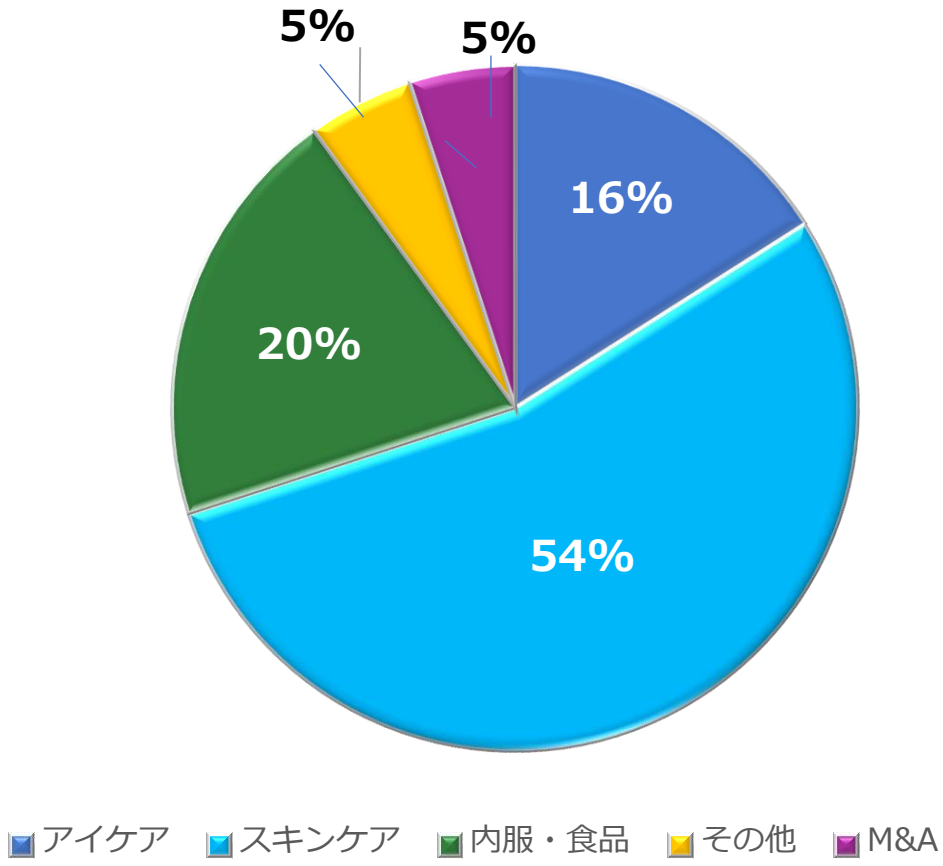
アイケア・スキンケアの堅実な成長に加え、アジアを中心とした内服・食品事業の成長により、海外売上比率は2027年に50%を超える想定

(億円)

―カテゴリー別　売上推移―



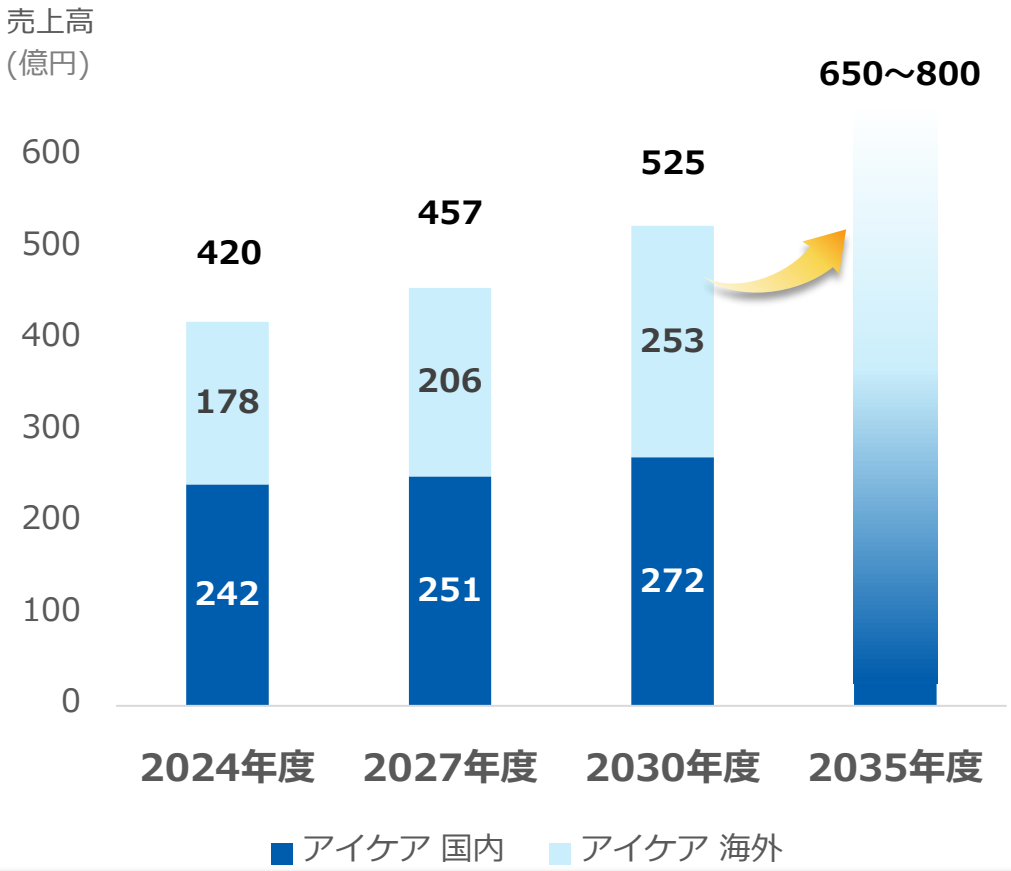
― 2030年カテゴリー別　売上構成比―



アイケア事業について

圧倒的な生産能力を有し、国内では新規需要獲得、海外ではアジアを中心にEU市場の拡大

アイケア（医療用除く）



国内

- 目薬リテラシー啓蒙による新規ユーザーの拡大
- スイッチOTCマーケットへの拡充

海外

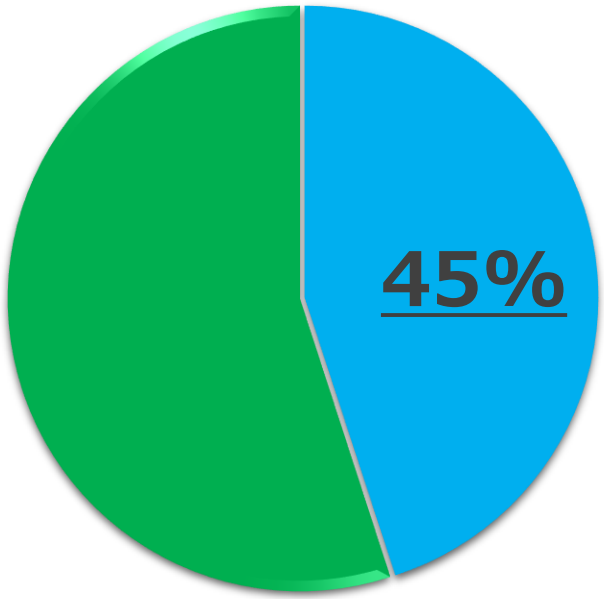
- アジアを中心としたOTC目薬シェアの拡大
- Sigma社を介したEUドライアイマーケットの拡充

アイケア事業での強み

国内OTCでのシェア圧倒的No.1。

高品質かつ圧倒的な生産能力で、OTCから医療用まで幅広い商品群をグローバルに供給可能な体制

― 国内目薬シェア ―



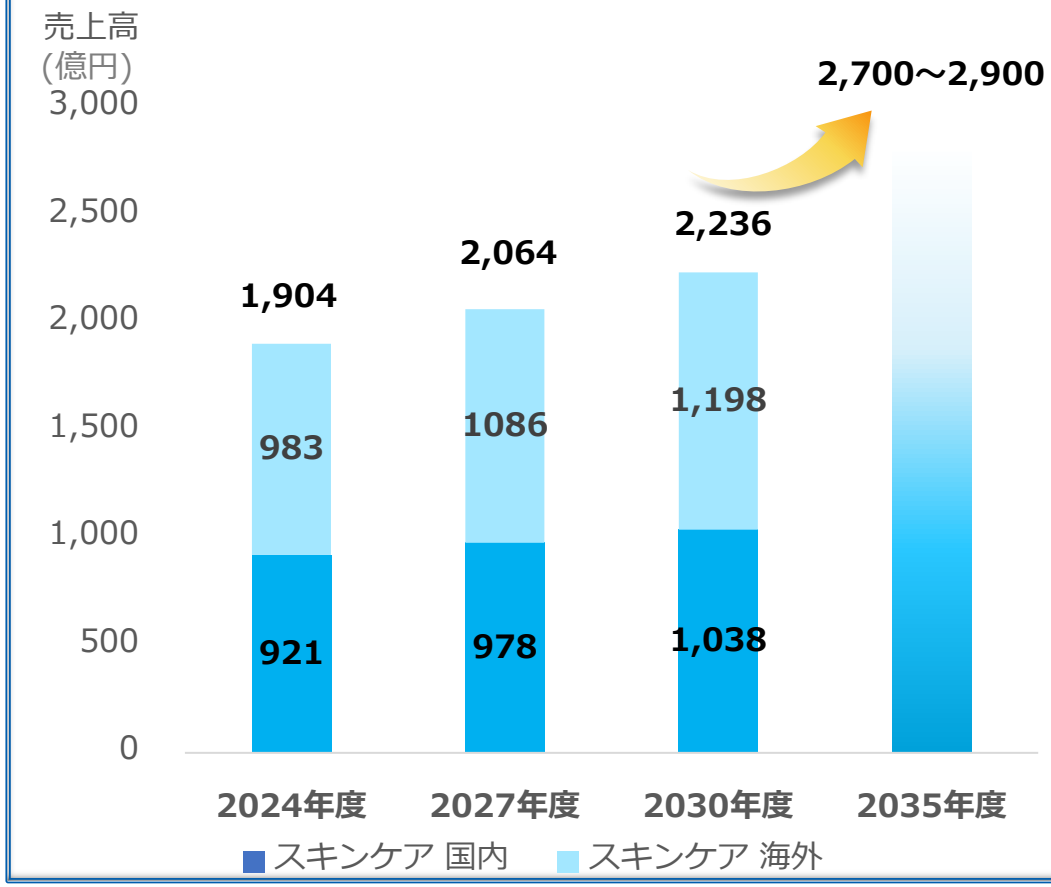
インテージSRI 目薬カテゴリー
2024年4月～2025年3月累計販売金額シェア

― 目薬生産拠点 ―

スキンケア事業について

スキンサイエンスからの高付加価値商品の導入と
ロートグループの研究知見と技術を応用したヘアケア事業への本格参入

スキンケア



国内

- スキンサイエンスの加速
  (肌ラボ、メラノCCに続くブランドの創出)
- Gyuttoなどのサイエンス　ヘアケアブランドの導入・拡大
- 高付加価値スキンケアのクリニック領域への参入

海外

- HadalaboTokyoのEU、中東エリアへの販路拡大
- セルサン、50の恵などのヘアケア事業の拡大

スキンケア事業での強み

サイエンスファーストのブランドに対するお客様からの支持の高さに加え 製薬会社ならではのスキンケア機能成分に対する高いパテントカ

ブランドカ

肌ラボ商標
46の国と地域

基礎化粧品 数量ランキング

No.1

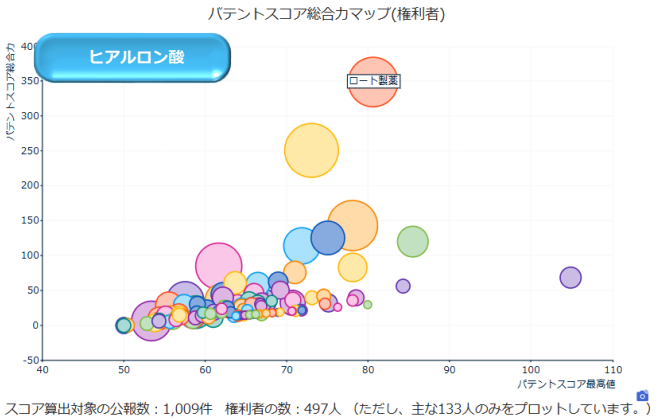
インテージSRI 基礎化粧品計（4カテゴリー）
2024年4月～2025年3月累計販売数量シェア

変化するお客様との接点作り

高いパテントカ

・ヒアルロン酸
・ビタミンC
パテントスコア総合カ

No.1



スコア算出対象の公報数：1,009件　権利者の数：497人 （ただし、主な133人のみをプロットしています。）

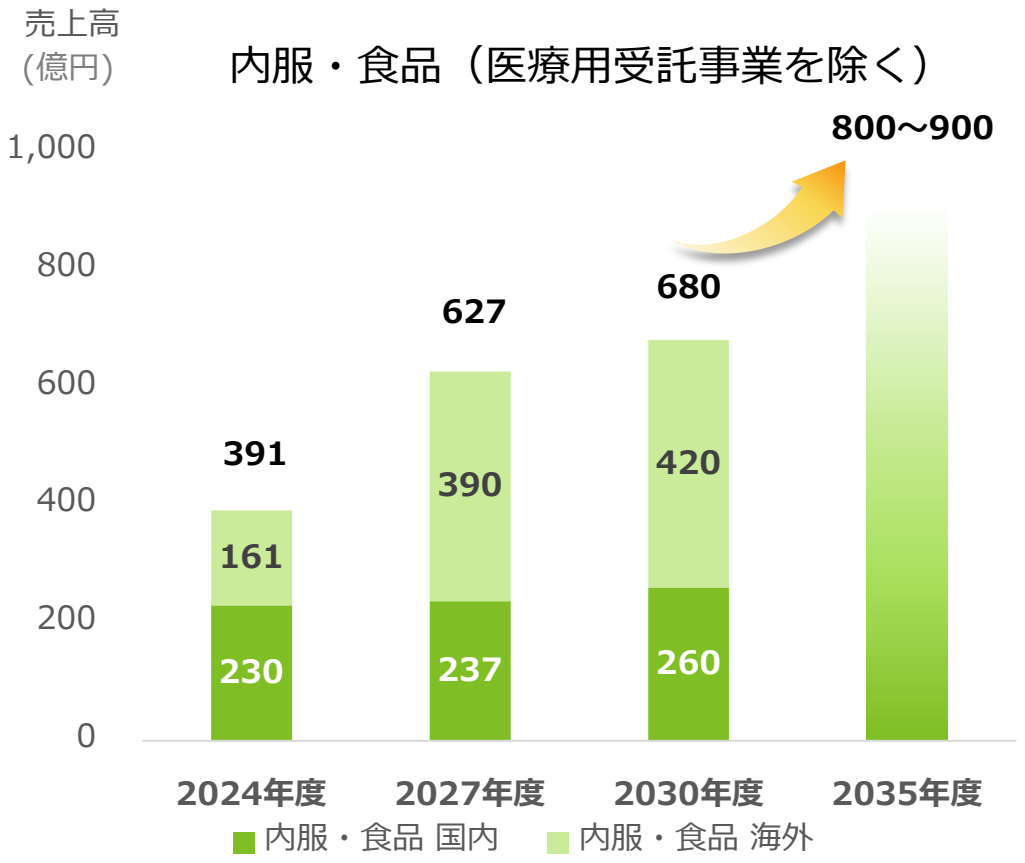
IFSCC国際学会でTop10に評価

(株)パテント・リザルトの特許分析ツール「BizCruncher」を用いて当社にて調査、作成。円の大きさが当該分野の有効特許件数を、横軸が各権利者の特許群の中で、最高値を有する特許1件の スコアを、縦軸が各権利者の特許群のスコアを合算した値を示す。2025年4月時点

内服・食品事業について

フィトサイエンスからの機能サプリメント導入に加え、EYSとメンソレータム社のシナジーによる売上最大化

内服・食品



国内

- ロートＶ５のブランド拡大
- 新規素材を用いたユニークな商品提案
- 腸内ケア・予後ケア食への参入

海外

- EYSのブランド資産を用いたアジアでの販路拡大
- メンソレータム社とのシナジーによる販路拡大

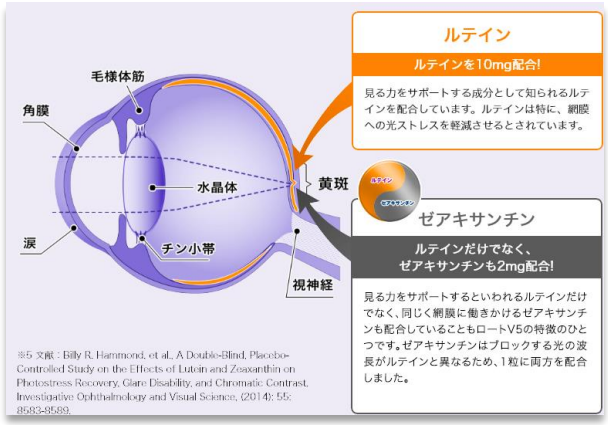
内服・食品事業での強み

多様化するお客様の健康ニーズに合わせた、サイエンスに基づいた生薬・ファンクショナルフーズの開発力

生薬・漢方素材

機能性表示成分

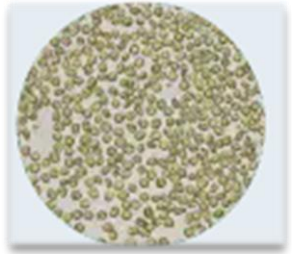
フリー体ルテイン



機能性素材

Active·Healthy·Life METAP®

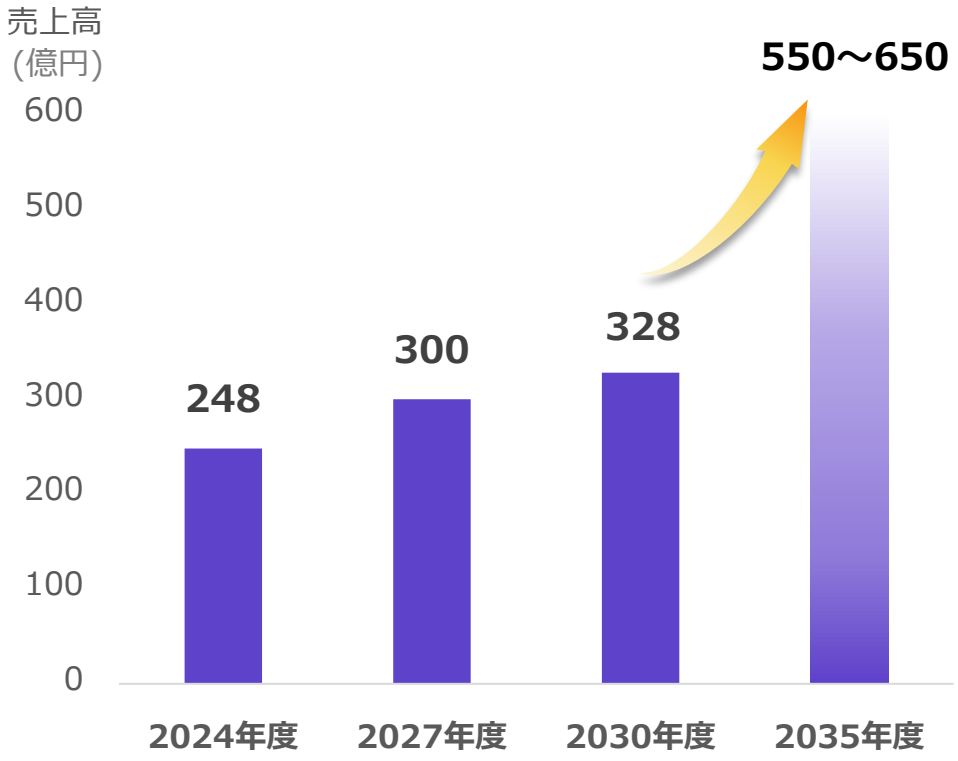
微細藻類



メディカル事業について

CDMOを中心に医療事業の基盤を強化。
バイオ・細胞技術をコアに、自社販売とライセンスアウトで収益化へ。

メディカル事業



＊メディカル事業：
クオリテックファーマ、ロートニッテン、オフサルモス、
インターステム、ロートセルファクトリー東京の合計

国内

- ■ 再生医療、バイオ細胞加工技術を用いた CDMO事業への本格参入
- ■ 眼内レンズ、涙道チューブなどの眼科医療領域の強化
- ■ 高機能化粧品や美容機器などの皮膚科医療領域の強化
- ■ オートロジェルシステムなどの医療機器の強化
- ■ 医療用眼科新薬・再生医療等医薬品の開発

海外

- ■ 医療眼科事業のグループ内での連携を強化
- ■ AOF(Animal Origin Free)培地の海外導出

医療用パイプラインの進捗

■医療用点眼薬

2050年の近視人口は50億人を超え、社会課題となる近視進行へ効果を示すROH-001がP2ステージへ。

医療用眼科領域パイプライン一覧 (2025年5月時点)

領域	コード	予定適応症等	予定地域	連携先	ステージ	目標※1
医療用眼科	ROH-101	CMV※2 角膜内皮炎	日本	Théa、㈱エムズサイエンス	P3	► 2026年承認
	ROH-201	ドライアイ※3	日本	日本たばこ産業㈱	P2	► 2028年承認
	ROH-202	眼科用治療剤	日本	㈱デ・ウエスタン・セラピテクス研究所	P1	-
	ROH-001	近視進行抑制	日本	㈱坪田ラボ	P2	-

※1 目標は連携先との合意ではない当社の目標　※2 サイトメガロウイルス　※3 シェーグレン症候群患者を含めたドライアイ患者　・ROH-101：P3 終了・ROH-201：P2b 終了・ROH-001：P1 終了

■再生医療等製品

変形性関節症、重症心不全はP2のステージへ。2030年以降の新薬導入へ。

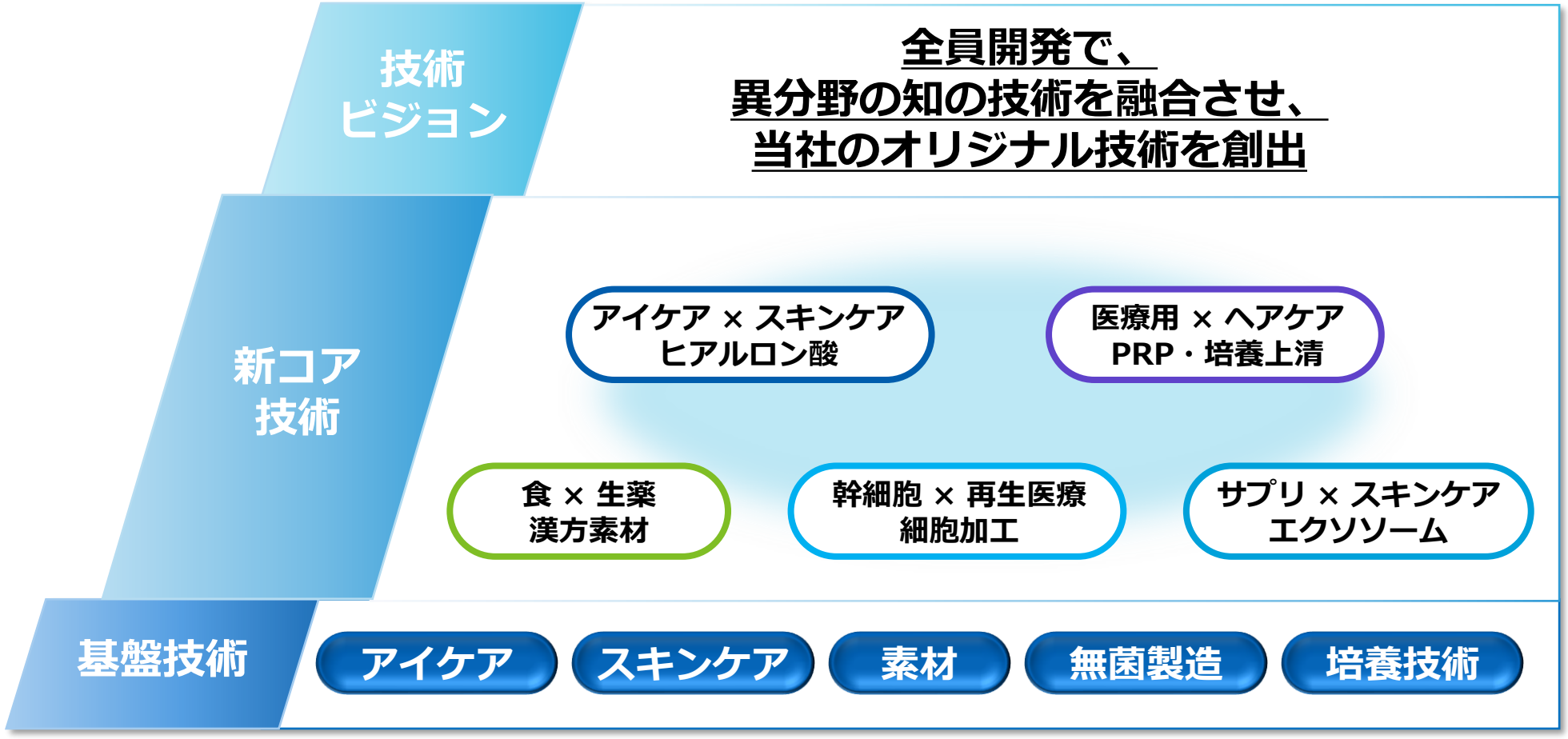
再生医療パイプライン一覧 (2025年5月時点)

領域	細胞種	コード	予定適応症等	予定地域	連携先	ステージ	現在のステージ終了目標※1
再生医療	ヒト脂肪由来幹細胞	ADR-001	肝硬変	日本	塩野義製薬㈱	P2	(P2終了)
		ADR-002K	重症心不全	日本		P3	► 2029年度
		ADR-001	腎疾患	日本		P2	(P2準備中)
		ADR-001	重症下肢虚血	日本		P2	► 2025年度
		ADR-001	肺線維症	日本		P3	► 2025年度
	ヒト臍帯由来幹細胞	UDI-001	神経変性疾患	日本		P2	(P1終了)
	軟骨細胞キット※2		外傷性軟骨欠損	日本		P3	(申請準備中)
			変形性関節症	日本		P3	► 2027年度

※1 目標は連携先との合意ではない当社の目標　※2 インターステム社（当社子会社）

研究開発基盤

サイエンス×異分野技術の融合で、オリジナル技術の創出



資本政策 キャッシュアロケーション(2025-2030の6年間)

キャッシュの創出力を強化し、成長投資へ積極投下するとともに、安定的配当政策の継続による株主還元の実施。

インフロー	アウトフロー 使途		金額	方針
資金調達（200億円）	成長投資	設備投資	1,000億円	■需要拡大に応える海外生産設備増強 ■本社工場リノベーション ■中国アイケア生産増強
営業CF（研究開発費控除前） 3,300億円		研究開発費	900億円	■コアビジネスをより加速させる研究開発投資 ■素材開発力・ロートサイエンス力の強化 ■次の柱である再生医療、医療用点眼への投資
		DX/IT投資	300億円	■１人当たりの生産性を高めるDX/IT投資
		M&A・出資	500億円	■経営基盤強化・事業シナジー・新規分野参入
	株主還元	配当など	800億円	■配当性向30%以上、DOE3.5%以上 ■中長期的な利益成長に合わせて増配 ■安定的・継続的な株主還元を行う

株主還元

利益の増減に左右されず、継続的、安定的に増配。
2025年度に配当性向を30%台に引き上げ、株主還元を強化。

配当性向

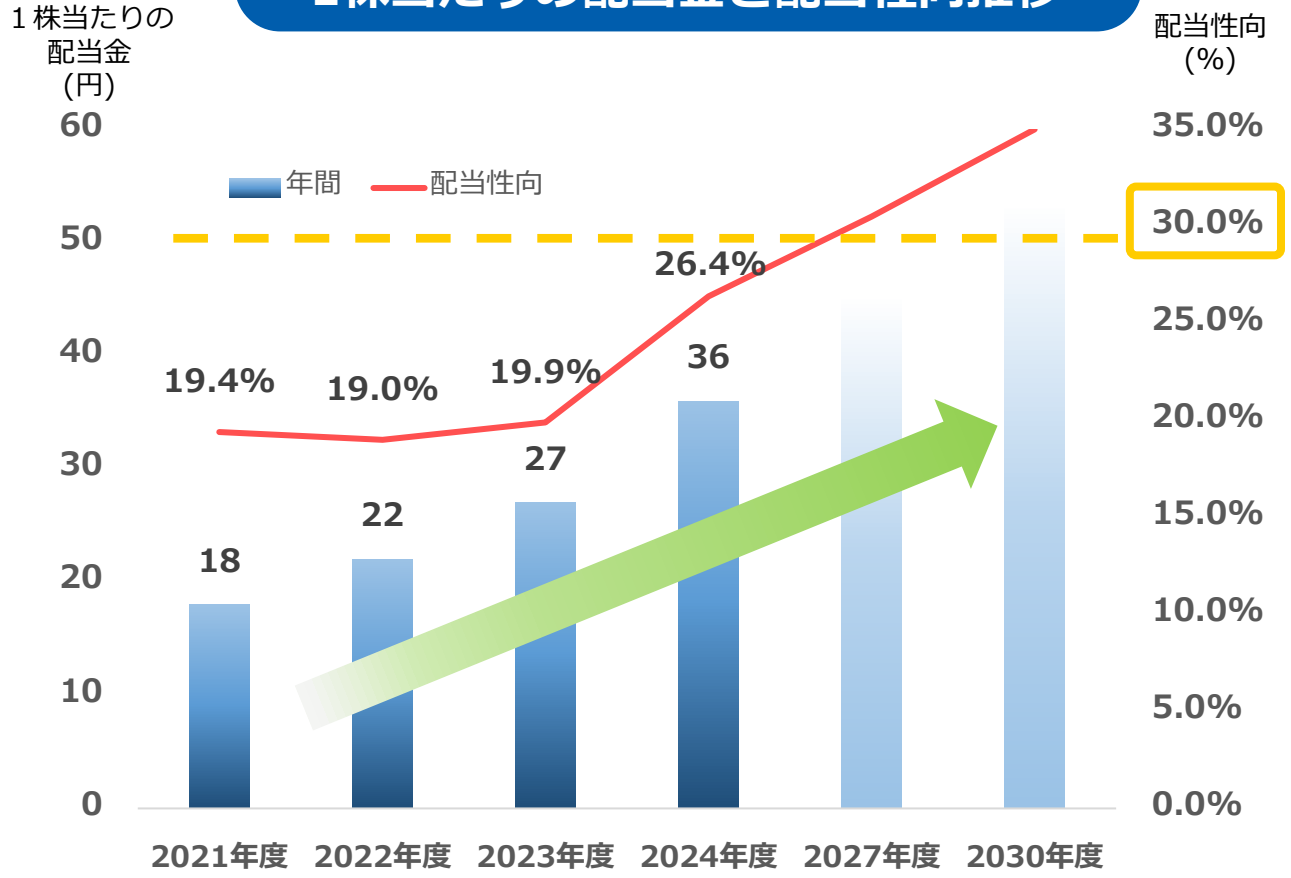
30%以上

DOE

3.5%以上

※2024年度のDOEは3.0%です

-1株当たりの配当金と配当性向推移-



ROHTO